

# 宝清寺

いのは変わらず現在に至っています。七日間あることから、彼岸の期間を仏教週間とも呼びます。しかし、明治十一年（一八七八）太政官達二十三号により、現在の法律により、国民の祝日となり現在に至っています。

九月二十日〜二十六日  
秋のお彼岸  
十月十二日（日曜日）  
お盆会式

## 一、お彼岸の歴史

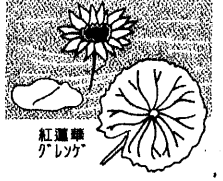
彼岸という言葉の響きには、どこか温かいものがあります。春と秋の一年に二回の彼岸の期間、ほとんどの日本人が墓参りなどして先祖の供養をします。そのお彼岸は古来より伝わる仏教行事ですが、もともとは仏教が日本に伝わる前から、民間で行われていた太陽を信仰する農耕儀礼が、当時の外来仏教と結びつくことよって、現在のようになりなりました。伝えられたのが始まりとされています。

日本では彼岸の行事が行われるようになったのは、諸説があります。延暦二十五年（八〇六）、諸国の国分寺にて法要が営まれたのが彼岸の起源との説がありますが、はっきりしている訳ではありません。しかし、平安時代になると「浮遊日記」にすでに「彼岸」の記述があります。「源氏物語」には「彼岸の始めに」といふとき日なり・・・とあることから貴族の間では彼岸会の法要が営まれていたことは明らかです。鎌倉時代の「吾妻鏡」には彼岸懺法の技術があり、亡き人の追善供養として広まったとされています。江戸時代になると彼岸行事は仏教行事として定着、日本古来の祖霊信仰と結びついて、盛んに行われるようになりまし。この事は貝原益軒の「日本歳時記」に「春分秋分の初日より、三

日にあたる日を始として、其後七日を仏氏名づけて彼岸といふ。又彼岸の四日を中日と名づけ、又、時正といふなり。此七日間、世俗、寺に至り仏に供す・・・これを彼岸会と云・・・彼岸は日本の風俗なり・・・唐土にこれなし・・・」の記述から当時、今と同じような彼岸の風習があった事が分かります。又、江戸では六阿弥陀指、観音巡礼などの彼岸詣・彼岸参、彼岸舟に乗る彼岸講などが庶民の間で盛んでした。彼岸が暦にのり、春と秋の七日間と定められたのも江戸時代になってからです。明治になると暦は太陽暦になりまし。改暦されても彼岸は春分、秋分の日を基準に前後三日間の合計七日間と

「お釈迦様の教え」  
お釈迦様の教えに「汝等比丘、寂靜、無為の安樂を求めんと欲せば（中略）、獨処に閑居すべし。（中略）（遠離覺）「汝等比丘、若し勤めて精進すれば、則ちが如し。（精進覺）とありまし。水の常は流れて、則ち能く石を穿つが如し。（精進覺）とありまし。世の中の相は、大変にかましく、驛人も走る」といふ言葉があります。一人の者がいいかげんな思惑をいふらずと、おおくの人々が、それを本當のことのようにいふらします。それは真実というよりも推測がそうさせるのです。それは「他人」の知らぬことを俺は知っている」といふ優越感を味わう意味や、先走った心がそうさせるのでし。これらが重なって世の中の喧嘩を引き起こしているのです。それに対して「維摩の一黙」といふ言葉があります。維摩という仏教に通じた居士がくだらなぬ問いに黙して語らず、そのだましている姿こそがすべてを語っているという意味です。静けさに住して多くの真実を知ることには、中々難しいことですが、これが本當の寂靜心でし。精進とは「水滴石を穿つがごとし」で一滴の水が石に穴をあけるように、無理のない念いの心が、やがて願ひとなり、世の喧嘩の中にあつて黙々と自分の中に大きな心、つまり「自利利他」の人柄を培うのではないでし。うか。

お彼岸の期間  
中は墓参りのお花とお線香を用意してありますので、どうぞご利用ください。



「お釈迦様の教え」  
（山に蓮華の花が咲きました。）

「お盆会式」案内  
十月十二日「お盆会式」  
法要午後二時・七時  
「お盆会式」は、一生をかけて、法華経の教えを説き、私たちに「法華経の教えの大切さを示された、日蓮上人の恩に報い、感謝を捧げる法会です。日蓮上人自身も、常に報恩を忘れることはありませんでした。ある時は父母に対し、ある時は師匠、更には国に対してさえも同様でした。恩に報いるための心が日蓮聖人の法華経弘通の日々を支えていたのです。

「正念心場」  
（正念は八正道のひとつ）  
「正念場」とは、「ここぞという時」、「重要な場面」、「かんじんかなめのふんばり所」を意味しています。この、「正念」といふ言葉も仏教語です。「正念」とは、仏教修行の八つの正しい道、すなわち、八正道のひとつなのです。ちなみに、八正道とは、次の八つです。

- ① 正見 - 正しく見る
  - ② 正思惟 - 正しく思考する
  - ③ 正語 - 正しいことばを口にする
  - ④ 正業 - 正しい行いをする
  - ⑤ 正精進 - 正しい努力をする
  - ⑥ 正命 - 正しい生活をする
  - ⑦ 正念 - 正しく想念する
  - ⑧ 正定 - 心を落ちつかせ精神統一する
- 八正道を幾々の日常生活の心掛けにしたいものです。